



血清アルブミンについて

アルブミン (ALB) とは

→ タンパク質の一種で、総タンパクの60~70%を占めており
そのうち約40%が血管内、約60%が血管外に存在します。
生体の膠質浸透圧を維持(血管内外の水分量の調整)する役割があります。
また、半減期は14日~18日であり、約2週間前の栄養状態を反映しています。

●ALBは脱水症により、高値となります。

脱水により血管内の水分が減少し、濃縮されるためです。

●ALBは低栄養により、低値となります。

摂取不良により、エネルギー源として蛋白質が消費されるためです。
ALBが低値になる原因は低栄養以外にも、以下が挙げられます。

※当院では低栄養による
ALBの低値(3.0g/dL以下)
の方がNST対象となります。

①炎症・手術後・感染による低値

炎症部分にてALBが消費され、ALB値は低値となります。

②肝臓機能低下・肝臓疾患による低値

ALBは肝細胞により作られているため、肝臓疾患などによる肝機能低下
によりALB値は低値となります。

③腎臓機能低下・ネフローゼ症候群・腎不全による低値

腎機能が低下することで、タンパク尿として尿中に漏れ出すため、
ALB値は低値となります。

血管内のALBが減少すると、血管外からALB
が補われます。そのため、血管内のALBが低い
と血管外のALBも減少していることになり、
その補正にはかなりの期間を要します。
そのためALBを低値のままにせず、早期に治療
することをおすすめします。

ALB値は採血時の体位により、
5~10%変動します。

坐位での採血 > 臥位での採血
※基準値は坐位での採血時の
ものです。



NSTへのお問い合わせは栄養管理部またはリンクナースへ
(栄養管理部PHS：913・695)